

令和3年度 行橋市立泉中学校 学力向上プラン

《中期目標》教科横断的な「伝え合い」活動を通して、深い学びを創り出す生徒の育成
 〈成果指標〉令和5年度の全国調査の標準化得点 **国語107以上 数学135以上**

《短期目標・指標》基礎・基本的な知識・技能を活用し、自他の思いや考えを交流する中で、思考力・判断力・表現力を獲得する生徒の育成
 〈成果指標〉令和3年度の全国調査の標準化得点：**国語102以上 数学130以上**

■視点1-②

■視点5

■視点2

■視点4

【家庭・関係機関との連携】
〈取組（指標）〉
 ⑤自主学習ノート及び宿題の内容で定期的な小テストを行い、不十分な生徒は追試等で最後まで粘り強く学力補充する。
 (C、D層を中心に)
〈成果（指標）〉
 ◆一日あたりの家庭学習時間
 【生徒アンケート10%以下、全国比+4.5以下】

【授業づくり】
【基礎・基本の確実な習得】
〈取組（指標）〉
 ③⑦生徒アンケート（「1単位時間に「めあて、まとめ、振り返り」のある授業を実施する」）【3.0以上：4段階評定尺度】
〈成果（指標）〉
 ◆友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる。【生徒質問80%以上、全国比-0.5以下】
 ◆話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。【生徒質問80%以上、全国比+0.4以上】
 ◆授業チェックリスト（「課題意識を喚起するための工夫」）【3.0以上：4段階評定尺度】
【根拠を明確にして書きまとめ、解決したことや考えを表現する力の育成】
〈取組（指標）〉
 ④全教科で、学習形態に応じて、考えたことの原因や根拠を伝え合い、自分の考えをまとめ直す活動を実施する。（1単元内で7割以上の授業で実施）
〈成果（指標）〉
 ◆自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。
 【生徒質問60%以上、全国比-15以下】
 ◆生徒アンケート（「授業中、自分の考えをその理由や根拠をもとに、発表しようとしている」）【3.5以上：4段階評定尺度】
 ◆授業チェックリスト 指導と評価の一体化のための学習評価の工夫【3.0以上：4段階評定尺度】

【教員の意識・指導力の向上】
〈取組（指標）〉
 ②定期考査4回に学力調査等を参考にした「思考力を問う」問題を出題する。（各学年、各教科1問以上）
 ③思考力等の育成をねらいとした授業を公開をする。（各学年、学期ごとに1名以上）
 ④「学力向上虎の巻」や「未来の架け橋」を活用し、ゴールの姿を見通した授業づくりを実施する（各教科一単元以上）
 ⑥小中合同の研修会の実施。（年間3回）
〈成果（指標）〉
 ◆定期考査で出題した思考力を問う問題の回答率80%以上、正解率40%以上

【学力基盤づくり】
〈取組（指標）〉
 ①各教科において確認テストを単元ごとに行い、定着が十分でない生徒に対しては補充学習を行う。【教師アンケート3.0以上】
 ②「伝え合い」活動を充実させることで、自分の考えを持ち、考えを表現する生徒の育成を図る。【教師アンケート3.3以上】
〈成果（指標）〉
 ◆定期考査における基礎学力指定問題 【各教科正答率80%以上】

■視点1-①

■視点3

全国学力・学習状況調査及び児童生徒による授業評価から見た「課題」					授業づくりや学力向上の取組に係る「要因」	
教科	国語		数学		・国語「話し合いの話題や方向を捉える」「自分の考えをもつ」に課題（R1、R2） ・数学「資料の散らばりと代表値」「論理的な思考を必要とする分野」に課題（R1、R2） ・県学調（R1中1→中2）の結果、国語活用が伸び悩みあり	①基礎・基本が定着していない生徒に対する指導が十分ではない。 ②各教科において、自ら思考し、文章表現をする機会を増やしているが、課題解決の場面で活用できるまでには至っていない。 ③学習指導の目標と内容が明確でない授業がある。 ④問題解決的な学習、互いの考えを出し合う活動が十分ではない。 ⑤個に合わせた、家庭における学習課題が十分に設定されていない。 ⑥義務教育9年間で系統的に児童生徒を育む意識が不足している。 ⑦指導と評価の一体化のための学習評価の工夫や、課題が見られる児童生徒への支援の見通しが不十分
全国調査標準化得点	R1	R2	R1	R2		
	104.3	100.2	108.6	132.0		
質問紙調査等	・自らの考えをうまく伝えるように工夫して発表する(全国比-22.7) ・課題解決に対する主体性(全国比-13.4) ・自尊感情(全国比-11.2) ・生徒授業評価「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりする時間が十分に確保されていますか」(評定2.7：4段階評定尺度) ・授業チェックリスト「生徒自身に学びの変容を自覚させるための工夫がなされている」(評定2.8：4段階評定尺度)					